

釧路森林資源活用円卓会議（第1回川上部会）について
～ 第5回釧路地域森林資源循環検討会、釧路地域林政連絡会議現地検討会～

1. 開催日時 平成25年11月13日（水） 午前9時45分～午後1時00分
2. 開催場所 根釧西部森林管理署 203 林班（厚岸町）、標茶町有林 434～436 林班
3. 参加人数 34名
4. 川上部会の概要
 - ・ 釧路森林資源活用円卓会議（鈴木不二男座長）は、川上（木材産出側）から川下（木材供給側）の関係者が一堂に会し、森林資源を活用する取組について話し合いを行う会議。
 - ・ 林業の低コスト化のためには、機械化の促進、路網の整備、機械化に即した森林施業方法を進めることが必要である。そこで、今回の川上部会においては、阿寒町字飽別の市有林内の路網整備について検討を行った。
5. 主な意見
 - 【低コスト林業について】
 - ・ 木材マーケットへの安定した径級構成の原木供給が必要。
 - ・ 昨今、導入が進んでいる高性能林業機械を生かすためにも、間伐においては、定性間伐より列状間伐を、主伐においては、樹下植栽より伐採幅を広くとった帯状の誘導伐を、選択した方が良い。
 - ・ 高性能林業機械の導入は労働災害の防止にも有効
 - 【飽別線（林業専用道）の整備について】
 - ・ 高性能林業機械を効率的に運用するには、路網整備が必要である。
 - ・ 周辺のカラマツ林分は伐期を迎えているので、誘導伐の方が良い
 - ・ 路面を乾きやすくするために、伐開幅を広くとるべき
 - ・ 誘導伐後の植栽の際には、将来、機械が林地に入ることを見越して、林縁5mは何も植えない方が良い。
 - ・ 2km 整備に4年とは時間がかかりすぎるので、森林整備を進めるためにも工事期間の短縮が望ましい。



現地説明の様子



木を伐倒する高性能林業機械



伐倒跡。機械による列状間伐



標茶町で整備した林業専用道
阿寒飽別でも来年度より整備予定



誘導伐の後にカラマツ植栽。



阿寒の林業専用道について説明する山本課長補佐
(左から1人目)



意見を発表する大澤川上部会長
(右から3人目)